

大統領選挙後のアメリカと世界

東京大学大学院教授 藤原 帰一

- * ジョージア州の番狂わせ
- * トランプのオウンゴール
- * 権限を省庁に委ねる
- * 最優先はNATOの結束
- * 緊張高まる対中関係
- * ロシア、中東政策は逆転
- * 世界の不安定は長期化
- * 難問の北朝鮮問題
- * リベラルに関する混乱



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
明けておめでとうございます。難しい状況でございますが、今年も、毎週元氣よくやっておりますと思っておりますので、よろしくお願いたします。

本日は、毎年このところ恒例でございますが、藤原先生に世界情勢についてお話をいただきませう。特に、アメリカは大統領の就任を控えておりまして、まだたいへん騒ぎが続いているわけでございますが、これが収まってどういった方向にこれから行くのか、それが特に中国との関係や日本にとってどういうことになるのか。その辺は皆さんもたいへん興味がおありだと思いますので、今日はじっくりとお話を伺いたいと思います。

それでは藤原先生、よろしくお願いたします。（拍手）

ジョージア州の番狂わせ

藤原 皆様、明けましておめでとうございます。このようにまたお話をする機会をいただきましたこと、たいへん感謝申し上げます。

アメリカで大統領選挙が行われました。その後の世界を考える、これが本日の課題なわけですけれども、その前提となるポイントが、大統領選挙は本当に終わったのかという課題です。選挙が行われたのは昨年十一月ですが、既に一月八日にもなりながら、やっと終わったかなというところですね。異常事態ですね。

大統領選挙そのものについては、トランプ・